

様式第2号

視察研修先	独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療 センター	氏名	鈴木みゆき
視察研修項目	ホスピタルアートの取り組みについて		
<p>感想・所見など</p> <p>独立行政法人 国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センターは、新しい病院のかたちとしてマスコミにも報道され話題の病院だ。</p> <p>病院の理念として「私たちはあたたかいところと思いやりをもっていつもみなさまと共にあゆみます」とある。</p> <p>正面入り口から入っていくと、物語の中を歩いていくかのような明るい空間になる。アートとは、痛みを希望にかえるためのものだ。そして、そのアートは対話を通じてスタッフの见えない思いをかたちにする。対話をすることによって、職員にも変化がおき、患者にも落ち着きなどの変化がおこった。対話をしながら病院をつくるうちに、痛みのある所にアートがつくられる。特に一階と地下一階には多くある。</p> <p>医者からも要望があり、真っ白い通路はやる気がでない。とのことでアートを取り入れることになった。イラストレーターの島田さんが壁画のベースを書き、スタッフや患者などみんなで塗り絵のようにそめていく。壁画はすべて光の要素がふくまれている。光はあらゆる色を集めてできており、それが結集を意味し、患者やスタッフなど一つになることを示す。</p> <p>2018年には公共建築賞を受賞している。</p> <p>印象深かったのは、霊安室に向かう通路の壁画に、水色の花がたくさん描かれていた。その花を看護師が描いているとき、涙を流して、亡くなった患者のことを思い出した。これは、医療スタッフも患者の痛みを受けており、痛みは循環しているということだ。また、赤ちゃんを亡くされたお母さんが、通路を歩いて花を見た時、これでうちの子も天国にいける。と言われた。アートにより、癒され死は終わりではない、希望の光が心に差し込んだということだと思う。</p> <p>屋上にはボランティアや障害者の方々が植えてくれた庭がある。自然から学ぶこともたくさんあるからだ。</p> <p>人として尊重し差別のない環境を作ることが、自然治癒力を高めると考えている。</p> <p>アートボランティアは160名おり、プレゼント作りなどをしてきている。通路の壁に小さな扉があり、開けるとプレゼントが置いてある。それが楽しくて子どもたちは病院に来るといふ。遊び心がたくさん散りばめられている。</p> <p>視察の時間の前に、松田華音さんのピアノコンサートが30分開催された。アートを取り入れた病院だからこそオファーがきたのだ。ただただこのような病院があったらいいなと感動した。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	香川県高松市議会	氏名	鈴木みゆき
視察研修項目	高松市立みんなの病院(再編・ネットワーク化)について		
<p>感想・所見など</p> <p>高松市は人口約 41 万 7 千人、瀬戸内海に面しており、年間を通じて寒暖の差が小さく穏やかな気候に恵まれている。</p> <p>三つの市立病院、高松市民病院、香川診療所、塩江分院があったが、国の動向と生き残りをかけて、病院事業の再編・ネットワーク化として高松市新病院基本構想を平成 21 年 3 月に策定した。それにより、三つを二つに統合した。高松市民病院と香川診療所を統合し新病院へと、塩江分院は継続することになる。</p> <p>建築工事が四年間遅れたため、経営が悪化し患者がはなれたが、平成 30 年 9 月 1 日に高松市みんなの病院(299 床)として外来診療を開始した。</p> <p>移転先は高松市の南部地域になる。7つの地域があり、①都心地域(6,491 人) ②中部地域(16,833 人) ③西部北地域(2,676 人) ④西部南地域(5,680 人) ⑤東部北地域(1,665 人) ⑥東部南地域(2,732 人) ⑦南部地域(10,740 人)となっている。そのため、主に南側の患者の受け皿となっている。もともと県の園芸試験場だった土地のため、広い駐車場と建物もゆったりとした作りだった。</p> <p>高松医療圏の公立・公的病院の立地状況を見ると、8つの病院がひしめいている。都心部には県立病院(626 床)、高松十字病院(581 床)、KKR 高松病院(179 床)、栗林病院(271 床)があり、東部北地域と中部地域などに残り 4つの病院がある。病院の数が飽和状態となり患者の争奪戦になっている状況だった。</p> <p>昨年の決算は一時的に減少したが回復してきているとのことだった。ただ、借入金が発生し、従業員の給与カットもあったとのこと、職員の皆様の身を切るご努力があったことに驚いた。</p> <p>新年度はコンサルの意見も取り入れ、経営に取り組んでいく方向だ。回転率は 80 から 85%をこえる。一日あたり 250 人とすると、利益をあげるには客単価 55 千円を目指す。</p> <p>重点的に取り組む医療として、最新医療機器を導入し、がん診断・治療の向上を図るとともに、適切な緩和ケアを提供している。県内に 4 台しかない高度な機械 PET-CT や、リニアックがあり充実している。</p> <p>少子高齢化が進む中、国の方針をふまえ、市立病院の生き残りをかけた再編問題は寒河江市も話題になった。状況は時間がたつにつれ日々変化していく。それにあわせた病院のあり方を考えていかなければならない。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	愛媛県四国中央市議会	氏名	鈴木みゆき
視察研修項目	四国中央市子ども若者発達支援センターについて		
<p>感想・所見など</p> <p>四国中央市は平成 16 年 4 月 1 日に川之江町、伊予三島町、土居町、新宮村が合併し誕生した。愛媛県の東端部に位置し、東は香川県、南東は徳島県、南は四国山地を境に愛知県と接し、四国で唯一 4 県が接する地域となっている。</p> <p>人口は 8 万 9 千人・面積約 4 2 0 平方キロメートルで、東西に約 2 5 キロメートルの海岸線が広がり、その南に比較的狭い市街を形成している。</p> <p>豊かな自然により水の恵みを与えられ、主な産業は紙産業であり、皆の生活が支えられている。</p> <p>四国中央市では平成 1 9 年に発達支援室を新設し、発達相談・検査業務・個別支援計画作成の推進、障がい児通所支援事業に取り組んできたが、それ以前から社会福祉法人などによる障害福祉サービスの充実が図られてきている。よりいっそうの発達支援の強化と社会生活支援の充実を図るため、平成 29 年 4 月 5 日「子ども若者発達支援センター」を建設した。</p> <p>パレットプランは、四国中央市総合計画を上位計画とし、四国中央市障がい者福祉計画や四国中央市子ども支援事業計画における、支援が必要な子ども・若者への取り組みを補充する位置付けとなる。</p> <p>発達支援課長(保健師)を先頭に、センター長、管理係(5 名)、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども若者総合相談センター</li> <li>○児童発達支援センター</li> <li>○東部・西部子どもホーム</li> </ul> <p>で構成され、職員は合計 49 名(男 8 名、女 41 名)。それぞれの部門に園長(保育士)や保健師、公認心理士、言語聴覚士、作業療法士、社会福祉士など資格取得者を配備している。</p> <p>子ども若者総合相談は、障害にかぎらず、子どもから青年、大人も含め 39 歳まで相談対象を拡大した。今年度の相談件数は昨年度より 2 倍近くになる模様だ。</p> <p>毎年 4 月に市内全ての保育園・幼稚園の年長児を対象に、ことばの検査を実施している。必要な時は個別療育を利用することができる。</p> <p>放課後等デイサービスは、障害や発達に特性のある学齢期の児童を対象に、放課後や夏休みなどの長期休暇中の居場所を提供し、生活能力の向上や、集団生活への適応力を育てていく。</p> <p>全体の人口減少とともに子供の人数も減少しているが、乳幼児健診受診状況を見ると、受診者数に対する有所見率(皮膚疾患や身体発育異常、言語発達遅滞や運動機能障害、精神発達遅滞など医師の所見があった)が高くなってきている。</p> <p>また、不登校児童生徒数を見ると、2018 年小学校で 22 名(前年 19 名)、中学校で 115 名(前年 85 名)と中学校に入学すると環境が変わり不登校になる生徒が多いことが分かる。</p> <p>このように近年の少子化や核家族化を背景に、ニート、引きこもり、不登校など社会参加が</p>			

難しい子ども・若者が増加したことに対し、各分野の機関が連携して、総合的な支援をしていくことも兼ね備えていることがとても良いところだと思った。子育てしていく中で、子どもの障害に早く気付くことができるようにフォローしてくれる、とぎれのない体制は理想的だ。国や市からこのような事業をなさいと指示されることなく、常に何が必要か話し合いながらすすめていくことができるのも、職員の活力ややりがいにつながっているのではないかと思った。